

CL-3-ii-04	薬物治療V	第3学年	後期 必修	1.5単位
担当者	成田 年・武藤 章弘・清水 孝恒・鳥越 一宏			
一般目標 (GIO)	悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。悪性腫瘍に伴う疼痛管理、終末期医療と緩和ケアを含め、がん治療を一貫して学ぶことにより、医療チームの一員として悪性腫瘍の薬物治療に参画できるようになるための総合的知識を修得する。			
到達目標 (SBOs)	<p>【悪性腫瘍】</p> <ol style="list-style-type: none"> 腫瘍の定義を説明できる。 悪性腫瘍について、分類、検査法、疫学、予防因子などを説明できる。 薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術、放射線療法など）の位置づけを説明できる。 <p>【悪性腫瘍の薬、病態、治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 抗悪性腫瘍薬の薬理、臨床適用を説明できる。 抗悪性腫瘍薬の副作用、耐性獲得機構を説明できる。 代表的ながん化学療法のレジメンについて構成薬物、その機能、副作用、対象疾患を概説できる。 肺癌、乳癌の病態、薬物治療を説明できる。 消化器系悪性腫瘍の病態、薬物治療を説明できる。 造血器悪性腫瘍の病態、薬物治療を説明できる。 頭頸部、感覚器、泌尿器、生殖器、骨軟部の腫瘍の病態、薬物治療を説明できる。 <p>【がん終末期医療と緩和ケア】</p> <ol style="list-style-type: none"> がん終末期医療の病態と治療を説明できる。 がん性疼痛の病態・症状（知覚神経異常）について説明できる。 がん性疼痛における治療薬（抗炎症薬、麻薬性鎮痛薬）について説明できる。 包括的緩和医療における薬物療法について説明できる。 <p>【化学構造と薬効】</p> <p>悪性新生物がかかわる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効の関連を概説できる。</p>			
受講心得・準備学習等	疾患の病態と薬の作用機序、薬物治療をそれぞれよく理解しておく必要がある。			
事後学習・復習等	教科書、配布プリントを中心として、事後学習・復習をしっかりと行うこと。			
オフィスアワー	原則、講義のある日の14:00～18:00であるが、それ以外も随時受け付ける。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式	
回	項目	内容	担当者
1	悪性腫瘍総論	悪性腫瘍の定義、病態生理、腫瘍細胞の特徴	清水
2	抗悪性腫瘍薬（1）	アルキル化薬、白金製剤、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、など	清水
3	抗悪性腫瘍薬（2）	抗腫瘍ホルモン関連薬、分子標的治療薬、など	清水
4	抗悪性腫瘍薬（3）	抗悪性腫瘍薬の副作用・耐性化とその対策	清水
5	悪性腫瘍各論	肺癌、乳癌、大腸癌	鳥越
6	悪性腫瘍各論	消化器系悪性腫瘍	武藤
7	悪性腫瘍各論	造血器悪性腫瘍	清水
8	悪性腫瘍各論	造血器悪性腫瘍	清水
9	悪性腫瘍各論	頭頸部、感覚器、泌尿器、生殖器、骨軟部の腫瘍	清水
10	がん終末期医療	がん終末期における病態生理、症状とその治療	成田
11	包括的緩和医療（1）	がん性疼痛の病態と薬物治療（局所麻酔薬）	成田
12	包括的緩和医療（2）	がん性疼痛の病態と薬物治療（抗炎症薬）	成田
13	包括的緩和医療（3）	がん性疼痛の病態と薬物治療（麻薬性鎮痛薬）	成田
14	包括的緩和医療（4）	包括的緩和医療薬物療法	成田

成績評価の方法	成績評価は本試、追再試験によっておこなう。
----------------	-----------------------

成績評価の基準	本試験の点数が 60%以上を合格とする。 追再試験は筆記試験（口頭試問（レポート）を追加する場合があります）を行い、総合点が 60%以上を合格とする。
教科書	清水孝恒、鳥越一宏 編著 成田 年 監修「分子病態薬理学 III」(京都廣川書店)
参考書など	成田 年監修「疾患薬理学」(ネオメディカル)